

日本の淡水産固有種の分布と起源

辻 彰洋(科博)

日本産の淡水珪藻の多くは汎分布種(コスモポリタン)であると考えられてきた。しかし、近年の研究により、固有種が多く含まれることが分かってきた。

固有種は、1)湖沼のプランクトン、2)清水域の付着性種、3)酸性温泉の付着性種で多く見つかっている。

このうち、1)の湖沼のプランクトンは、琵琶湖・中禅寺湖・湯の湖・阿寒湖から見つかっている。このうち、*Aulacoseira subarctica*種群は、私たちの遺伝子解析の結果、遺伝的距離が極めて短いことが分かっており、北方性で遺存的な固有種と考えられる。

2)の清水性の付着性種も、冷水域に多いことから北方性と考えられたが、私たちの調査の結果、大陸側に類似種がないことが明らかになった。一方、ヒマラヤ地域から類似種が報告されており、植物地理学上でいわれる「日華区系」に近い分布をしているらしいことが分かってきた。